授業科目名	きもの学Ⅲ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	１単位（３０時間）
授業方法	講義	実務教員科目	○
担当	各教員・講師	テキスト	
授業目的	学生自身が個々に深めたい専門的なテーマを、教員・講師・関係者と連携しながら、自身が身に付けた専門技術を活かして研究制作ができるようになる。		
授業概要	学生自身が個々に深めたい専門的なテーマにあわせて、教員・講師が個別に指導し、外部関係者と協力しながら専門テーマにあわせた研究制作をおこなう。		
到達目標	外部の専門家・機関と関係性をもち、専門的なテーマを深めることができる。 専門技術で専門的テーマに沿った制作物をつくることができる。		
授業計画	オリエンテーション 各教員・講師と専門テーマに沿った研究制作		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％）・ 課題提出（４５％）・課題研究の内容（３０％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	和裁ビジネス１		
学年・年次	和裁専門科１年次 和裁研究科３年次	単位数	１単位（３０時間）
授業方法	実習	実務教員科目	○
担当	大森　貴之	テキスト	なし
授業目的	着物のリサイクルの現状を知り、廃棄する着物に新たな価値を考え企画し、仕立て替えの技術を学び商品を制作する。		
授業概要	㈱エコリンク・(一社）日本和裁士会大阪府支部と連携して、㈱エコリンクの関西倉庫でリサイクル着物の仕分け実習を行い、その中で廃棄する着物から仕立て替えによりあらたな価値をもった商品を実習で制作する。		
到達目標	きものの仕分けの目利きの基礎がわかる。 仕立て替えができるようになる。		
授業計画	㈱エコリンク関西倉庫にて着物仕分け実習 仕立て替えについての考え方講義 仕立て替え実習		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・・授業態度×授業回数（１５％） ・課題提出（７５％） １００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	特になし		

授業科目名	着付けⅢ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	１単位（３０時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	徳田　敦子	テキスト	着付け技能検定の過去問
授業目的	他装の技術を磨く		
授業概要	着付け技能士２級の合格を目指して検定対策実習をおこなう。花嫁衣裳及び振袖の礼装着付けも行う。		
到達目標	着付け技能検定２級合格レベルの技術を身につける。		
授業計画	第１回　着物の自装と名古屋帯・袋帯の復習 第２回　着物他装、長襦袢の着付け、準備の仕方 第３回　訪問着着付け 第４回　訪問着着付け 第５回　訪問着着付けと袋帯二重太鼓 第６回　訪問着着付けと袋帯二重太鼓 第７回　検定試験対策　時間配分と寸法 第８回　検定試験演習 第９回　検定試験演習のフィードバック 第１０回　検定試験演習 第１１回　文化祭　他装実践演習 第１２回　文化祭　他装実践演習 第１３回　検定試験演習		

	第１４回　花嫁着付け 第１５回　花嫁着付け 第１６回　振袖着付けと袋帯の結び方 第１７回　振袖着付けと袋帯の結び方　実技テスト 第１８回　他装か自装女袴の着付け
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 各回実習評価（４０％）実技テスト（３５％） 　１００点満点で６０点以上を合格とする。
履修上の注意点	授業中に行うデモンストレーションは動画撮影で記録してもよいこととするため、実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。 ※本事業の単位取得と第１０回実技授業参加で着付け技能士２級の受験資格の一部を満たすこととなる。

授業科目名	全縫製作（産学）X		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が２４点以上ある。		

授業計画	全縫製・修理の総合実習
評価方法	出席日数×授業時数（１０%）・授業態度×授業回数（１５%） 実技課題（７５%）　１００点満点で６０点以上を合格とする。
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。

授業科目名	全縫製作（産学）XI		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		

授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が２４点以上ある。
授業計画	全縫製・修理の総合実習
評価方法	出席日数×授業時数（１０%)・授業態度×授業回数（１５%） 実技課題（７５%）　１００点満点で６０点以上を合格とする。
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。

授業科目名	全縫製作（産学）Ⅻ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○

担当	安田　有希	テキスト	きものＩ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が２４点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 実技課題（７５％）　１００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）ⅩⅢ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が２４点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 実技課題（７５％）　１００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）XIV		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	２単位（９０時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が２４点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 実技課題（７５％）　１００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）ＸＶ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が３０点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 実技課題（７５％）　１００点満点で６０点以上を合格とする。		

履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。

授業科目名	全縫製作（産学）ＸVI		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものＩ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が３０点以上ある。		

授業計画	全縫製・修理の総合実習
評価方法	出席日数×授業時数（１０%）・授業態度×授業回数（１５%） 実技課題（７５%）　１００点満点で６０点以上を合格とする。
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。

授業科目名	全縫製作（産学）ⅩⅦ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		

授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が３０点以上ある。
授業計画	全縫製・修理の総合実習
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 実技課題（７５％）　１００点満点で６０点以上を合格とする。
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。

授業科目名	全縫製作（産学）ⅩⅧ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	３単位（１３５時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○

担当	安田　有希	テキスト	きものＩ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が３０点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 実技課題（７５％）　１００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		

授業科目名	全縫製作（産学）ⅩⅨ		
学年・年次	和裁専門科　１年次 和裁研究科　３年次	単位数	２単位（９０時間）
授業方法	実技	実務教員科目	○
担当	安田　有希	テキスト	きものⅠ オリジナルテキスト （大原和服専門学園）
授業目的	実践を通し、知識・技術を修得する。		
授業概要	産学協同システムを活用し、実践的な和裁縫製実習を行う。		
到達目標	１．期限内に仕上げることができる。 ２．縫製基準・縫製使用に沿った完成ができる。 ３．取得点数が２４点以上ある。		
授業計画	全縫製・修理の総合実習		
評価方法	出席日数×授業時数（１０％）・授業態度×授業回数（１５％） 実技課題（７５％）　１００点満点で６０点以上を合格とする。		
履修上の注意点	実習毎に示される事項の予習と復習を必要とする。		